＜温州みかん＞

・「おおさかアグリメール」で配信している、年間の主な作業を掲載しています。（気候条件等で前後することがあります。生育状況に応じて管理してください。）
・病害虫の発生は栽培ほ場の状況を良く観察し、毎月の病害虫発生情報は　http://www.jppn.ne.jp/osaka/index.html を参照してください。
・防除薬剤は『大阪府農作物病害虫防除指針http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/body/mokuji.html 』を参照してください。

月	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
露地				土づくり		元肥		せん定	元肥2回目	苗の定植		除草	病害虫防除	接ぎ木		病害虫防除				摘果			仕上げ摘果						収穫	追肥							
管理作業				【土づくり】 ▼地表面が硬く排水が悪いと根が十分発達せず、肥料も効きにくくなります。牛ふん堆肥などの有機物を投入しましょう。 ▼土壌が強い酸性の園では、苦土石灰を10ａ当たり100から200kgを１から２回に分けて施します。 【元肥】 ▼春肥は、年間施用量の半分程度を施すことになります。肥あたりを防ぐため、春肥を２回に分けて施します。 ▼１回目は２月下旬頃に10ａ当たり配合肥料(8－5－6)100kgを施します。			【せん定】 ▼枯れた枝や傷んだ枝は確実に切除します。 ▼昨年表年の場合：今年は花数が少ないと予想されますので、枝を基部から切り落とす間引きせん定を主体に、花芽をできるだけ切り落とさないように、白い蕾が見え始めてから行います。 ▼昨年裏年の場合：今年は花数が多くなると予想されますので、切り返しせん定を主体に、花数を減らしましょう 【元肥】 ▼春肥２回目は３月下旬～４月上旬にかけて、10ａ当たり配合肥料（8－5－6）50kgを施します。			【苗の定植】 ▼みかんの苗木は３月中旬から４月上旬に植え付けます。 ▼あらかじめ深さ60cm程度の植穴を掘り、植付け一か月前を目安にようりん1kg、苦土石灰2kg、完熟堆肥10kgを混和し、地面から20cmほど盛り上げて埋め戻しておきます。 ▼植え付け時は、苗木の根を乾燥させないことが大切です。根を広げ土と密着させて深植えにならないよう注意しましょう。 ▼植え付け後は、支柱を立て、十分にかん水し、乾燥防止のため、敷きわらをしましょう。 【除草】 ▼除草は遅くとも5月中旬までに終えます。除草剤がみかんの枝や葉にかからないように注意しましょう。			【病害虫防除】 ▼訪花昆虫（コアオハナムグリなど）は、幼果にひっかき傷やリング状の傷をつけて傷果の原因となります。開花初期から満開期頃に防除しましょう。 【接ぎ木】 ▼高接ぎ更新の時期です。切り接ぎは5月上旬、腹接ぎは6月上旬までに行いましょう。 ▼穂木と台木の形成層をきっちり合わせ、接ぎ木テープを巻いて雨水が入らないよう注意しましょう。			【病害虫防除】 ▼黒点病は枯れ枝が伝染源となりますので、必ず除去しましょう。 ▼ハダニ類は薬剤の抵抗性が生じやすいため、同一薬剤の散布は年１回とします。 ▼アザミウマ類は落花後から幼果への寄生が多くなり、10月頃まで発生を繰り返します。チャ、マキ、サンゴジュなどに寄生し、みかんに移動しますので、樹の近くではこれらの樹種は避けましょう。 ▼ヤノネカイガラムシは年２、３回発生しますが、成虫になると殻を形成するため、薬剤を散布しても虫体に直接かかりません。 ▼殻を持たない幼虫の発生時期(6月中旬頃)に防除します。			【摘果】 ▼摘果の主な目的は (1) 適正な着果量に調整して樹勢を維持し、隔年結果を防ぐ。 (2)残した果実に養分を集中させ、肥大を促進させる。 (3)果実の大きさや外観をそろえ、糖度の上がりにくい部分の果実を除去し品質の向上を図る等です。 ▼生理落果が終了してから粗摘果を行います。まず、樹のすそやふところの糖度の上がりにくい部分を除去します。			【摘果】 ▼粗摘果は、早生温州では８月上旬、普通温州では８月中旬までに終え、下旬からは仕上げ摘果を行います。 ▼最終的に早生温州で25-30葉に１果、普通温州で20-25葉に１果の割合になるように摘果します。						【収穫】 ▼品質のバラツキを無くすため、日当たりや着色が良いものから順次収穫します。 ▼青かび病や緑かび病等の貯蔵病害は、果実の傷口から病原菌が侵入して発病します。ハサミ傷や押し傷などに注意して作業しましょう。 【追肥】 ▼秋肥は早生温州では10月下旬に、普通温州では10月下旬から11月上旬に、10ａ当たり配合肥料（8－5－6）100kgを施します。 ▼施肥時期が早過ぎると着色が遅れたり浮き皮が増えたりします。地温が下がる時期になると、根の吸収力が低下するので注意しましょう。								